

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもデイサービスふれあい・庚午		令和7年 2月 10日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容に合わせて環境整備を行っている。	療育スペースの備品の整理を行いプレイルームを多くとれるようにしている。また、活動内容に合わせて適宜間取りを変更して対応しているが全員での療育になると手狭に感じるので改善に向けていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		基本人員、加算人員等必要人員を配置しています。また、療育内容、利用児童数に合わせて増員を行っている。	今後の事を考えて人員の募集をしていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		年齢や特性に配慮しながら環境を整備している。	一日のスケジュールをホワイトボードで示しており見通しが付きやすくなるように配慮している。室内はバリアフリー化されており安全面も配慮しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の室内の清掃、消毒を実施しています。ぬいぐるみや毛布なども消毒後乾燥し適宜洗濯も行っています。	個室対応が構造上難しく今後は環境整備を行う必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		指導員と相談の上必要に応じて使用している。	プログラムの内容により年齢、性別、特性を踏まえて部屋割りをして活動に入っている。気持ちを整理する為のスペースも確保している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		個別支援計画、アセスメント等職員間でミーティングを行い情報共有を行っている。	職員間での意見交換を行い業務改善に努めている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		面談などでもご意見や様子などをうかがうようにしている。	送迎時や面談時での話の中でも適宜、意向等確認し改善できるように取り組んで行きたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		支援前後など毎日ミーティングを実施している。	職員の気づきを大事にして必要に応じて業務改善に取り組んでいる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在、第三者による外部評価は受けていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		スタッフミーティングの時間等を使用し適宜行っている。	1か月に1度、通所児童部門会議を実施している。職員のスキルアップや
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○		今年度よりホームページにて公開する
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントなどでニーズや課題を共有し作成している。	面談やアセスメント時に保護者からこどもの様子や希望を確認し反放課後等デイサービス計画に映している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		原案作成後は職員間で内容確認し意見交換を行っている。	パートには完成した内容を共有しているが原案確認時点でのミーティングに参加してもらえるように調整したい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		書面と口頭説明を行い職員間情報共有を行っている。パートにも同様に情報共有を行っている。	支援方針を職員、パートが意識統一し差異のない支援を提供できるように心掛けていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールを用いたものと独自のツールでのアセスメントを基に行っている。	支援日誌等の日々の記録なども適宜振り返りながらアセスメントを行う。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿って計画を立てるように心掛けている。	どの項目にも当てはまる課題を一つの領域区分に分けるのが迷う時がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員で検討、立案している。	基本的なプログラムは職員で話し合いの元決めている。プログラム内容によっては子どもたちで内容を決める時もある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定化しないように心掛けている。	個々の特性や趣味嗜好を考えながら積極的に参加してもらえよう内容のプログラムを設定している。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		プログラムによっては子どもの特性や年齢、性別等を考慮してプログラムや内容をわけて支援している	今後は就職や進学等の観点も取り入れた支援内容も導入していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		事前に計画を立てて準備を行う。当日の朝礼時に流れ、役割分担などの再確認を行っている。	送迎の兼ね合いや職員のお休みなどで打ち合わせが難しい時間帯があるので整備して対応したい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日のうちに振り返りや個々の情報共有を行っている。休みの指導員には翌日のミーティングの際に情報共有を行う。	送りの送迎や支援記録により簡潔な情報になりがちであるが、翌日のミーティングで再度情報を整理して共有を行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		業務・支援記録を記載している。	日々の記録は行っているが、画一化しないように指導員間で情報交換し記録に活かしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリング実施後に指導員間で情報共有を行い計画、支援内容の見直しを行っている。	半年に1度のモニタリングを実施し検討会を行い適宜見直しを行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインを確認しながら基本活動を織り交ぜながら支援している。	ガイドラインに則し自社の特色を発揮できるように支援を行ってきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもが自己決定や選択をできるようにプログラムにも話し合いの機会を設けている。	特性や年齢などにより意見が言えない児童や参加しているだけの時もあるので個別にしたり、環境を整えて意見や自己決定しやすい雰囲気作りが必要である。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		参加している	日程調整を行い、管理者や児童発達支援管理責任者が主に会議等に参加している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		緊急時、提携している医療機関に対応してもらえるようになっている。	今後も同様の対応を継続していく
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		基本的には保護者との連携が主になるが、急遽の時間変更や連絡調整等の情報共有で学校側から連絡をもらう時もある。	学校によっては月の行事予定表が遅れたり、掲示していない所もあるので保護者との確認を随時行う必要がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		利用中や卒園前に情報共有を行い相互理解を行っている。	現在、児童発達支援の実績がなく今年度はおこなっていないが、児童発達支援の実績が始まる段階で開始する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		卒業した児童がまだいない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		連携を図る機会は今までなかったが、今後、必要に応じて機会を設けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		外遊びで近所の公園に行ったときは他児童も地域住民との関わりもある。地域の子ども食堂等にも行く機会がある。	子どもの様子やプログラムの内容によっては事業所内だけの活動になるときもある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		参加している。	勉強会や研修会などのお知らせを適宜もらい参加できる時は参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時での情報共有や連絡帳を活用し共通理解を持つ機会を図っている。	送迎時に不在が多い、連絡が取りづらい等のご家庭もあり情報提供にタイムラグが出ることがある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		保護者からの相談や質問に答える程度。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		面談にて説明を行っている。	契約・面談時に説明を行い了承を得ている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングや面談時に確認を行っている。	モニタリングや面談時だけでなく、SNSなどの活用しながらご家族との関わりを増やして利用者本位の観点を高めていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		時間調整しご自宅に訪問したり、事業所に来所してもらったりしながら説明、同意を得ている。	今後も同様の対応を継続していく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		要望があれば随時対応している。	相談・助言内容など職員間で共有して対応する。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		必要性は十分にあると理解しているが開催までには至っていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		連絡体制を整えて、迅速に対応できるようにしている。	会社への報告も行い、対応等検討し迅速に対応するように心掛けている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的にInstagramを更新している。集团プログラム予定表は書面にて各家庭に配布している。	今後も同様の対応を継続していく
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報の取り扱いについて説明し同意を得ている。	Instagramで情報発信を行っているが使用する写真は後方からの写真や顔、名前など個人が特定できる物はモザイクをかけて対応している
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵や文字、フリガナ表記にしたりとここに合わせて提示している。保護者にもわかりやすく情報伝達できるように配慮している。	今後も同様の対応を継続していく
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		行事を開催したり、地域住民を招待したりすることはない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		玄関に各マニュアルのファイルを提示しておりいつでも確認できるようにしている。随時更新をおこなっている。年間を通して1回以上は研修会、勉強会を開催している。	今後も同様の対応を継続していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		事業継続計画を策定し計画的に研修会を開催し、周知している。	今後も同様の対応を継続していく
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		内服薬、てんかんの有無、対応方法などアセスメント時に確認をおこなっている。	今後も同様の対応を継続していく
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からの情報を基に対応を行っている。検査結果などあればコピーをとり保管している。	今後も同様の対応を継続していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		年度初めに安全計画を作成し、計画に基づいて研修や訓練、環境整備を行っている。	今後も同様の対応を継続していく
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者に緊急時の連絡先、主治医等の情報を書面で記載してもらいファイリングして保管している。	今後も同様の対応を継続していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット発生時は報告書を作成し情報共有を行っている。ミーティングでは事故発生の経緯や対応策を検討し実行している。	全職員に周知できるようにミーティング時に情報共有を徹底している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		適宜、研修会や勉強会へ参加し、伝達講習などで周知を行っている。	年に1回以上の研修会の参加や社内での勉強会を行っている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に身体拘束について説明を行って同意を得ている。また、指導員にも適宜研修や勉強会に参加している。	今後も同様の対応を継続していく